

♣グリーン電力出資金出資者
♣グリーンコープでんき利用者 の皆様

グリーンコープでんき通信 VOL.28

2019年10月28日発行
一般社団法人グリーン・市民電力



ながわ小水力発電所づくりをとおして、 奈川地域との対話・交流をすすめています。

グリーンコープの自然エネルギーによる発電所づくりは、単に発電所をつくって、グリーンコープでんきの電源を増やしていくことだけが目的ではありません。発電所づくりをとおして出会った地域の方たちの対話と交流をすることによってせっかくつった発電所をそのままにせず、自分たちに手繰り寄せ守っていくことが大事だと考えています。

現在、松本市奈川地域と安曇地域に発電所づくりが進められています。安曇地域のしましま小水力発電所はまだ建設に向け準備中ですが、ながわ小水力発電所は来年6月の竣工をめざして工事が進められています。あわせて、奈川地域との交流も進行しています。

今後も発電所をとおして、立地地域とつながることをめざして、実験的にグリーンコープ共同体理事を対象にツアーを行い、理事2人と事務局3人が参加しました。このツアーでは、奈川地域の隣に位置する塩尻市にあるグリーンコープの取引メーカーの酒井産業と井筒ワインへも訪問し、視察・交流をしました。自然豊かな地域でつくられているグリーンコープ商品の良さを知ることができました。

ツアーに参加した下本地理事長の報告書を紹介します。



●堰堤の半分をせき止めて工事を進めている様子を視察。魚の遡上など川への影響はない。



●奈川は有名な蕎麦の産地。秋蕎麦畑の穂高も望める。



ながわツアーに参加して

GCかごしま理事長下本地紀子

- ★9月26～28日、グリーン市民電力が「さとやまエネルギー」と一緒に小水力発電所を計画・建設している長野県の奈川地区、島々地区に視察に行ってきました。
- ★すでに起工式を終え、建設の始まっている奈川では、川の流れの一部をせき止め、堰堤に管を通すための穴を開ける工事が進んでいました。
- ★奈川は魚が遡上する自然豊かな川です。魚道が作られていて、そこを元気に遡上してくるイワナの姿を見ることができ、工事で川の様子が変わっても影響がないことを確認できました。来年春には完成予定ということで、今から楽しみです。
- ★一方の「しましま小水力発電所」の方は、計画予定の島々谷川を少し見ってきました。こちらは残念ながら、現地の砂防事務所の許認可が滞っており、計画が進んでいないとのことで、早く奈川のように建設が始まってほしいと願っています。
- ★視察をとおして、発電所建設地の今の様子を見ることができ、またいろいろな方と交流でき、長野の皆さんの温かさ、優しさを感じた旅でした。

「原発フリー」をめざす“グリーンコープでんき”。それなのに、大手電力会社に支払う「託送料金（電線使用料）」には、原発に使われる費用が含まれています。それは不自然でおかしくないかと考え、九州電力にどうしてそうなるのか、お尋ねしています。そのお尋ねに関する進捗はありません。今後、取り組みがすすみ次第、その都度ご報告することにします。

27具からは、グリーンコープが訴訟に踏み出すことを決意した経過と脱原発への思い・願いが記された2019年度グリーンコープ共同体総会議案書「託送料金」からシリーズで紹介しています。

託送料金を問う～原発を無くしていけるために～

…託送料金に含まれる問題を無くすために、裁判も辞さず、
たくさんの組合員や市民が話し合い、取り組んでいきます…

— vol.2 —

二. 電気料金、託送料金について分かってきたこと、その中でこれは問題だと知って来たこと。

I. 私たち・グリーンコープは、原発フリーの「グリーンコープでんき」の共同購入を始めて、初めて「託送料金」という言葉と出会って、それを分かろうとしてみました。

① 2016年に“グリーンコープでんき”の共同購入を始めました。その時、グリーン・市民電力のような新電力事業者は「電線使用料」として「託送料金」を大手電力会社に支払う仕組みだと知りました。私たちは、＜食べもの＞の中味を確かめるのと同じように＜でんき料金（電気料金・託送料金）＞の中味を確かめようと考えました。3年前のことです。

②最初に、電気料金は「総括原価方式」といって「かかる費用全額+あらかじめ算出した利潤＝電気料金」となっていることを知りました。これには＜功の面＞（電気は大切な公共のインフラでありそれを営む電力会社の経営が安定する必要）と＜罪の面＞（どれだけ費用をかけても良いという経営になるし、原発のような高額施設を持つほどに会社の利潤が増えていく）があると思いました。その悪い面が地域独占の状態で固定化するのを避けるために、いつかどこかでこ

の方式が終わる必要がありました（それが自由化の意義の一つです）が、ずっと続いていました。これはようやく2020年4月に電気料金の仕組みからなくなって終わります。

③託送料金は、電力自由化に際して、大手電力会社ではない新電力事業者が新たに電線を作るのではなく、大手電力会社から電線を借りるために作られた制度です。送配電（電線維持）事業に必要な費用を算出したものが託送料金となります。つまり、無駄に電線を作ることなく、新電力事業者も大手電力会社も使用料に応じて応分に費用負担をする合理的な仕組みと思いました。なお、送配電（電線維持）は自由化となりません。人口が少ない地方でも電線がきちんと維持される必要があるため、それは理解できることです。そして、自由化とならないため、託送料金は「総括原価方式」で算定されます。

④したがって、託送料金の料金設定は電気事業法に次のように定められています。「能率的な経営の下における適正な原価に適正な利潤を加えたもの」「額の算出方法が適正かつ明確に定められていること」



Ⅱ. 私たちが調べて分かってきたこと。その中で問題と考えてきたこと。

①私たちはまず九州電力で総額を調べてみました。公表されている「2013～2015年の三ヵ年電気事業費用総額」が5兆2,106億3,400万円（これに額は不明ですが利潤を加えたものが電気料金総額となる）で、そのうち約25%の1兆3,216億円3,764万円と、それに利潤として972億円が加えられた1兆4,188億円が「託送料金総額」となっていました。

②そこから、<食べもの>の原材料を一次、二次、三次原料まで確かめるのと同じ感覚で、電気料金と託送料金の原価の中味や割合等を確認する作業に入りました。

1)まず電気料金ですが、その中に、原発稼動に要する直接の人件費や燃料代等物件費を除いて、次の原発関連費用が原価計算されていることが分かりました。

a. 電源開発促進税

1974年に“電源開発”の名目で法制化された税金です。その9割が原発推進に投じられています。納税義務者は大手電力会社ですが、電気料金原価として電気利用者（国民）が負担してきました。

b. 使用済燃料再処理等発電費・同既発電費・同準備費

六ヶ所再処理工場の建設費等に充てられてきたと思われまます。

c. 原子力施設解体費

各大手電力会社の原発廃炉(解体)費の積立金と思われまます。会社ごとに違いがあり、積立が足りていない会社もあまます。

e. 高レベル放射性廃棄物処理費

国が責任をもって地中深くに埋めると言われているものです。

f. 原子力損害賠償・廃炉等支援機構負担金

東京電力福島第一事故損害賠償金の支払い義務は東京電力にありますが、東京電力だけでは支払えないという理由で、全国大手電力会社が資金を拠出するとなっています。中国電力・北陸電力2社を除く各電力会社ではこれが電気料金原価となっていて、電気利用者が負担しています。

g. これら「原発費用が原発の電気料金に含まれる」ことは、原発に賛成反対という立場の違いは別として合理的です。問題は、本来全部を計上した上で安ければ「原発のコストは安い」と説明できますが、費用の多くを人知れず税金他で賄って電気利用者（国民）に見えないようにして「原発は安い」と言われていることです。

h. また、通常感覚ならば事業結果を元とした会社負担費用（法人税・事業税などの諸税、株式交付費・社債発行費）と言えるものも料金原価に含まれることについて、社会一般の通念と違うことを知りました（これは託送料金も同様となっています）。

②次に、託送料金について調べてみました。

託送料金は送配電費用と説明されていますので、その観点から確かめまました。

a. 電源開発促進税

自由化が始まって以降、上の①全額が託送料金原価に移されていました。これは送配電費用ではなく、原発の発電費用ではないかと疑問を持ちまました。

<次号に続く>



■グリーンコープでんき

- 9月にグリーンコープでんきを供給した契約件数は、GC事業所、組合員契約件数、GC商品のお取引先も含め下表のとおりです。

生協名	GC事業所	組合員契約件数	容量(kW)
GC生協おおさか	6	47	229
GC生協ひょうご	10	23	160
GC生協とっとり	2	39	185
GC生協(島根)	1	79	344
GC生協おかやま	6	74	327
GC生協ひろしま	7	100	483
GCやまぐち生協	5	541	2,289
GC生協ふくおか	91	1,872	8,319
GC生協さが	17	107	651
GC生協(長崎)	11	151	702
GC生協くまもと	37	498	2,606
GC生協おおいた	17	264	1,188
GC生協みやざき	2	129	482
GCかごしま生協	12	205	945
単協計	224	4,129	18,908
G・市民電力(低圧)	28		151
G・市民電力(高圧)	62		4,538
総合計	314	4,129	42,505

■9月の電源構成

【関西電力エリア】

神戸市環境局西クリーンセンター(燃料:一般ごみ)が発電した電気100%の電源構成となりました。

【中国電力エリア】

敦賀グリーンパワー(燃料:バイオマス)100%の電源構成となりました。

【九州電力エリア】

敦賀グリーンパワー(燃料:バイオマス)99%、熊本の馬洗瀬小水力発電所1%と杖立温泉熱バイナリー発電所を合わせて割合での電源構成となりました。

※グリーンコープでんきは、電源となっている発電所をすべて特定しています。

※グリーンコープでんきの電源には、原発由来の電気は一切含まれていません。

■新税率での電気料金改定について

※「消費税」の税率改定に伴う10月1日からの電気料金についてお知らせします。

- 10月検針分の電気料金は、9月ご使用分を含むことから、消費税法上の経過措置に基づき税率(8%)が適用されます。

・「グリーンコープ・でんき」のご請求に関しては、以下ようになります。

11月ご請求(12月5日引落分)までが税率8%
12月ご請求(20年1月6日引落分)から税率10%の電気料金となります。

■市民発電所

- グリーン・市民電力の発電所の2019年7月の実績です。5月13日以降は太陽光発電の出力制御はありませんでしたが、10月から再開される見通しです。

発電所	出力(kW)	発電量(kWh)	売電額(円)
神在太陽光発電所	1,057	470,170	18,806,800
平池水上太陽光発電所	1,260	669,272	24,093,809
深年太陽光発電所	1,550	651,768	43,640,489
若宮物流センター	47	22,357	827,209
広島物流センター	47	22,004	814,148
やまぐち西部地域本部	54	26,746	882,618
グリーン未来ソーラー(10箇所)	244	170,973	3,590,433
合計	4,259	2,033,290	92,655,506

■グリーン電力出資金

- 皆さんから出資いただいたグリーン電力出資金の総額(実際に振り込んでいただいた額)は、9億1,549万円になっています。
- 出資目標額(積立目標額)は、9月26日現在で11億1,359万円になっています。

生協名	申込人数	申込件数	出資目標額
GC生協おおさか	210	236	17,470,000
GC生協ひょうご	98	118	8,276,000
GC生協とっとり	135	148	10,890,000
GC生協(島根)	239	249	12,210,000
GC生協おかやま	146	162	12,650,000
GC生協ひろしま	653	755	73,335,000
GCやまぐち生協	587	678	43,970,000
GC生協ふくおか	5,488	6,356	535,786,000
GC生協さが	323	361	44,245,000
GC生協(長崎)	579	636	56,553,000
GC生協くまもと	1,485	1,681	124,004,000
GC生協おおいた	787	875	69,848,000
GC生協みやざき	297	335	29,065,000
GCかごしま生協	695	766	75,296,000
合計	11,722	13,356	1,113,598,000

- グリーン電力出資金は、市民発電所の建設費に充てています。
- 2019年9月末支出総額は8億4,881万円で、残高は6,668万円になっています。市民発電所の建設は、継続して調査や検討をすすめています。

これまで出資いただいた金額	915,494,000
これまで支出した事業と金額	848,810,221
神在太陽光発電所、平池水上太陽光発電所、深年太陽光発電所、若宮物流センター、広島物流センター、やまぐち西部地域本部、グリーン未来ソーラー発電所、豊浦太陽光発電所、馬洗瀬小水力発電所、杖立温泉熱バイナリー発電所、ながわ小水力発電所(建設中)、しましま小水力発電所(準備中)、霧島太陽光発電所(建設中)、熊本菊池太陽光発電所、国東第二自然電力太陽光発電所	
グリーン電力出資金の残高	66,683,779